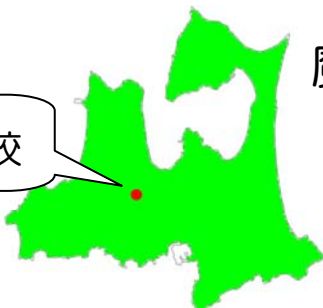


魔法のふでばこプロジェクト 成果報告資料

青森県立浪岡養護学校

浪岡養護学校



学級数 及び 在籍児童生徒数(平成23年5月1日現在)

学部	普通学級	重複学級	ベッドサイド	重心棟学級	訪問学級	計
小学部	0 学級 0 人	2 学級 5 人	0 学級 0 人	1 学級 3 人	3 学級 7 人	6 学級 15 人
中学部	2 学級 2 人	2 学級 6 人	0 学級 0 人	1 学級 3 人	1 学級 2 人	6 学級 13 人
高等部	3 学級 11 人	2 学級 4 人		2 学級 4 人	2 学級 4 人	9 学級 23 人

- ・活用した i P a d は 3 台。(貸し出しを受けた 2 台と、個人所有 1 台)
- ・それぞれの i P a d について、小・中・高等部・しらかば学級で優先的に利用できる時間割を作成し、活用した。
- ・校内でプロジェクトチーム (8 名) を結成し、i P a d の活用に取り組んだ。
- ・年度当初の活用計画と、活用状況を下表にまとめた。

対象児童生徒	活用計画	活用状況
◎発音が不明瞭あるいは発語のない児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・シンボルやVOC Aのソフトを利用してコミュニケーションの道具として使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DropTalk で、朝の会や帰りの会の進行、感想の発表などに活用している。
◎普通学級の児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・DAISY 図書を利用した、教科用図書の代替としての活用 ・漢字の筆順の学習 ・社会科における調べ学習 ・総合的な学習の時間における探求への活用 ・生活規制により、体験できない事柄のバーチャル体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部普通学級の在籍はないが、中学部・高等部の理科で、StarWalker や Moleculers を使い、効果的であった。 ・年度途中に、小学部ベッドサイド学級への転入があり、社会科の資料提示に活用している。
◎重複障害の児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・DAISY 図書の利用。(絵本の読み) ・平仮名、漢字、数字などをフラッシュカードのように表示する。(読みの学習) ・線、文字、数字のなぞり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・VOD に自作の DAISY 図書を入れて、読みや校歌の練習を行った。 ・NoiseLevel で声のコントロールの練習をした。 ・ひらがななぞり、カタカナなぞり、筆順辞典で文字の学習に活用している。 ・かなトーク Plus で、名前や単語の学習に活用している。
◎重度・重複障害の児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・DAISY 図書の利用。(絵本の読み) ・i P a d + 液晶プロジェクター で 光遊び ・音楽を聴く (選択して聞く、繰り返して聞く) 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせにはまだ活用できていない。 ・Firework、花火職人になろう、音 DE むりえ、なぞルート、タッチカードなどで活用している。
◎首から下にまひのある生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・口にくわえた 1 本のスティックと付加装置で、ピンチイン、ピンチアウトを実現する。 ・口にくわえた 1 本のスティックで、音楽へ参加する。(キーボードや打楽器の演奏) ・教科書や資料の提示 ・インターネットを利用した調べ学習 ・レポート等の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピンチイン、ピンチアウトは AssistiveTouch の設定で解決できた。 ・音楽での活用はできなかった。教科書、小説、漫画なども PDF にして提示できた。 ・インターネットを利用した調べ学習に活用できた。文字入力については、音声入力を模索している。

小学部（重複学級）



VOD (Voice of Daisy)
自作の DAISY 図書で読みや校歌の練習



カタカナなぞり 文字の形を確かめて・・・
NoiseLevel 声の大きさを調節する練習も

小学部（訪問学級）



かなトークPlus
指導者の質問に答えて、コミュニケーション。



ひらがななぞり
自分の名前や、好きなキャラクターを、なぞって練習。

中学部（重複学級）



DropTalk 朝の会で当番活動。



タッチカード
ピアノ、ブドウ、ドラム・・・ 楽しい!



DropTalk
帰りの会で、感想発表。
オリジナルのシンボルも登録しました。

中学部（訪問学級）



タッチカード、ナゾルート 指導者とのやりとりが多くなりました。

高等部（重複学級）



かなトーク Plus
指導者の名前を打ち込んでいます。



昼休みのひとコマ
タッチカード や どこ? がお気に入り。

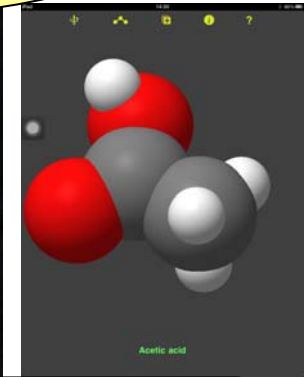
中学部（普通学級）



StarWalker、太陽系

昼間でも空の星が見えます。南半球の星も見えます。

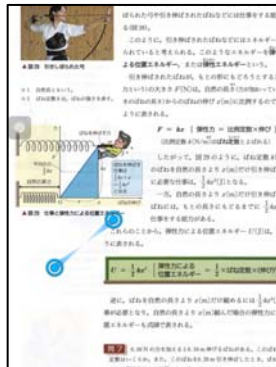
高等部（普通学級）



Molecules

分子を回して、原子の結合を確認。

高等部（普通学級）



GoodReader 教科書も、小説も、マンガもPDFに。

AssistiveTouch で1本のスティックで、ピンチイン・ピンチアウトが可能に。便利です。

Bluetoothヘッドセットで、音声入力も可能に。

自作のペン(上)とスティック(中)。
市販品を利用したスティック(下)

成果と課題

◎コミュニケーションのツールとして有効

・発音が不明瞭あるいは発語のない生徒が発するサインや身振りの意味を、身近な人であれば読み取ることができたが、関わりの少ない人は読み取ることが難しかった。**DropTalk** を活用することで、生徒が自分の意思をより多くの人に確実に伝えることができるようになった。

また、場面緘黙の児童とのやりとりでは、かなトーク P l u s を活用することでコミュニケーションがとりやすくなった。

◎学習への意欲喚起に有効

・**DropTalk** で自分の意思を伝えたり、朝の会などの司会をしたりすることで、自信をもって学習に取り組んでいる。

・モジルートやひらがななぞり、カタカナなぞり、筆順辞典を使うことで、自分から文字の学習に取り組んでいる。

◎4月からの取り組みで、児童生徒の指導に i P a d が有効であることを、多くの先生方が感じている。

・i P a d は携帯性や直感的な操作性に優れ、多様なアプリケーションがそろっている。学校内での活用にとどまらず、病院のベッドサイドや家庭での訪問教育でも活用できる。

今後の課題

◎活用の場面・方法を更に探っていく。

・個別の指導計画をもとに、何のための、どの場面で、どんなアプリケーションで指導するか、検討し活用していくことが必要である。

今年度は、重複学級や普通学級での活用に比べて、重度・重複障害の児童生徒に対して活用する場面が少なかったが、今後取り組んでいきたい。また、i P a d 本体の固定方法や入力装置なども工夫していくことが必要である。

◎児童生徒の人数に対して、i P a d の台数が少ないため、整備していく必要がある。

・回線使用料等の維持費を考えると、W i F i モデルで整備することになるが、校内での無線LANは使用できない。

W i F i ルーターを購入して対応するとともに、無線LANを利用できるように働きかけていくことも必要である。

◎アプリケーションや i P a d の操作について情報を得て、活用スキルを高める。

・多数公開されているアプリケーションの中で、指導に活用できるアプリケーションの情報を集めることが必要である。

また、i P a d の O S に備わっている機能や操作方法に関する情報を得て、活用するためのスキルを高めていくことが必要である。